

生きる

沖繩尚学高等学校附属中学校 一年

天願 鈴美

「戦争は、私にすばらしいことも教えてくれた。それは、生きるすばらしさだ」

私の祖母は、戦争を生き抜いた人の一人だ。

一高女卒業で、後輩であるひめゆり学徒隊と共に行動し、兵士の看護もしていたという。

祖母の話では、たくさんの兵士が、

「自分は国のために戦った。これで、自分の使命は終わった。」

と言って目の前で亡くなっていくのを見たそうだ。祖母は、こう思ったという。

「国のために、戦い、亡くなっていくのではなく、人それぞれが力強く生きていくということだ。」

と。

「だから、おばあちゃんは九十才まで生きてこれたんだよ。戸籍も焼けてなくなって、すべてを失ってしまったけれど……」

祖母は、そこで泣いてしまった。大切な人、大切な物、将来を奪ってしまった、あの悲惨な戦争を思い出したのだ。祖母は、年をとってしまっても、その日々を忘れない。今も、「戦争」という言葉を聞くと、ハッとした顔をして、心に残る深い傷あとが痛み出したようになる。祖母は、その後どんな気持ちで生きてきたのだろう。

「おばあちゃんは、夢を持っているよ。それは、長生きすること。そして、鈴美が大人になるのを見届けることなのよ。」祖母は夢を持っていき続けているのだ。祖母は、現在茶道の先生として、慰霊の日に行われる慰霊祭に来られる方々に、ひめゆり資料館前で、お茶席をもうけて、お茶とお菓子を差し上げてきた。それは、祖母の生き残った者としての務めとして、四十年間続けてきたことだ。またそれが、今では祖母の生きがいになってい

る。

私は、祖母の話聞いていろいろな事を考えさせられた。戦争が終わっても私には想像もできないほどの苦労をし、苦しい生活を強いられていただろう。そんな中で、将来のことを考え、夢を見つけて生きていくのは大変だっただろう。

私は思う。罪のない人の命を奪い、何年たって埋まらない心の傷をつける戦争はせず、みんなそれぞれの夢を持ち、そこに向かって生きる努力をしてほしい、と。

「夢」というのは、かなわなくても、それに向かって努力すれば、努力した分だけ笑顔になれることだと思うからだ。

私には、たくさんの夢がある。夢が持てるということは、本当に幸せなことだと改めて思う。

たくさんの人々の命や、将来を奪ってしまった悲惨な戦争、二度とくり返さないために私にできること、それは、祖母のような戦争体験者の話を聞いたり、戦争について書かれた本や、資料などを读んだりして、それを友達や家族で話し合ったりすることだと思う。そして、それを次の世代に伝えていく努力をしていきたいと思う。

最後に、私が考える平和とは、みんなに食べ物があって、未来がある、そんな世の中だ。今日を生きるために必死な子もいれば、食べ物捨てる子もいる。いじめや暴力によって自ら命を落としてしまう子もいる。みんなが自分だけでなく、他の人までの命を大切にすれば、みんなに明るい未来があると思う。そのため、今、私ができることは、身近なところからいじめや暴力をなくし、みんなが仲良くできるように、みんなと仲良くできるように努めたい。